

野上用水路「メダカ」保護へ 魚影県内一二七日一部捕獲

町内に生息するメダカの保護や水辺生態系の保存に努めている「鳥山のメダカを守る会」(磯淳昭会長)は十三日、野上の国道二九四号沿いの水田脇を流れる用水路の清掃を行った。

野上の用水路は、清水が涌き出て広い範囲で湿地帯がつくられ、これがまとまって水田脇や国道下の水路に流れ込んでいる自然の用水路。源流から約四〇〇メートル先で江川に達している。この間に昔から那珂川水系に住む「メダカ」がかなりの生息数が確認され、魚影は県内で最も濃いといわれている。

この日は会員のほか、宇都宮市内の「メダカ里親の会」の会長で宇大教授の水谷正一さんらも駆け付けるなど約二〇人が参加。水路や周囲に散

乱している空き缶やビニールなどゴミを拾い、極端に環境が変化しないように丁寧に水路の泥をさらった。

同守る会は町内のメダカの生息地の調査や保護活動に努めようと平成十五年に結成され、神長地内で保護活動など行ってきた。近く始まる国道拡幅工事に水路の半分ほどがかかることもあり、先立ってメダカの保護と水路内の清掃が計画された。

今月二十七日には拡幅工事にかかる水路約二〇〇メートルでメダカの捕獲を行い、会員が一時的に家庭に持ち帰って飼育し、工事終了後に放流する予定でいる。

磯淳昭会長は「野上の用水路は県内で最も魚影が濃いといわれる。間もなく国道工事に入ると思われるが関係者に

理解を求めるなど、多くの人と一緒に保活動にありたい」と話している。

同会では、小中学生を含め趣旨に賛同する会員を募集している。年会費一千元。問い合わせは磯淳昭会長宅821-2039まで。



清掃と掘り出しをする会員

暮らしのワンポイント

●入園・入学・進学祝い 本人からお礼

▼幼稚園や保育園への入園、小学校への入学は、子ど

今年も春の曇っつかスギ花粉飛散本格化
「大沢奥地で山林火災か？」
快晴で北風がやや強かった十八日午前、大沢はじめ山沿いでは山が霞むほどのスギ花粉が飛散した。やや黄色味を帯びた花粉が尾を引いて不気味に舞い上がり、一見、火災の煙と見間違ふほど。
今年一番の飛散の量とみられ、市街地では顔の半分もある大きなマスクをかけて足早に歩く人や、目を凝らしながらのドライバ―も見られた。
関東の今年のスギ花粉飛散予測は、少なかった昨年の一〇倍、平年の二―三倍といわれ最悪の年。これから本番で、春の憂うつは五月連休ごろまで続きそうだと。

メダカ生息地 保護を

鳥山「守る会」が水路清掃

【鳥山】町内に生息するメダカの保護や生態系保全活動を行っている「鳥山のメダカを守る会」(磯浮昭会長)は十三日、生息地の野上の用水路で清掃活動を行った。

同会は二〇〇三年七月に設立、神長地区に生息するメダカの保護などに取り組んでいる。野上地区の生息地は、水田脇を流れる用水路約三百メートルもなく始まる国道29

4号の拡幅改修工事に水路の一部がかかるため、メダカを保護し、工事にかからない水路内の清掃を行う計画を立てた。

活動には会員のほか、宇都宮市内の「メダカ里親の会」の水谷正一会長など約十五人が参加。散乱している空き缶やペットボトルを回収したり、水路の泥をさらった。二十七日には、生息するメダカを捕獲。家庭などで一時的に飼育し、工事完了後に放流する。

関係者によると、現在、県内約三十五カ所でもメダカの生息が確認されているが、減少傾向にあるという。磯会長は「町内の



メダカが生息する水路を清掃する参加者

小中学生にも参加を呼び掛け、四月からは五十人ほどで本格的な保護活動を展開したい」と話している。



輪王寺三仏堂前で車介助講習を受ける参加者

町議会三月定例会は二日に開かれ、会期を十一日までの十日間と決め審議に入った。四日には一般質問が行われ四氏が登壇。この中で小堀操議員は、二町合併後の市長選挙について触れ「福田町長は新市長選に立候補の意志はあるのか」と質した。

これに対し福田町長は「二町の協議はスムーズに進んで合併の運びとなったが、合併時までに調整する項目を多く残した。この合意形成に専念し合併を確実なものにしたい。六、七月にはその見通しもつくるので、その時点で新たに考えてみたい」とした。また「初代市長は基本的には鳥山町から出すべきだと思ふ」との考えも示した。

初日には人事案件や条例の制定、廃止、一部改正のほか補正予算など計三二案が提出され、このうち二四案が原案通り議決された。また新年度の一般会計など八予算案は提出、説明まで行われた。

今議会では、町長ら四役と議員の給与や報酬の一部カットのほか、町職員の寒冷地手当支給が廃止されるなど、厳しい財政運営の中での経費削減に努めた。また、出産奨励策として平成四年から続けられてきた「元気で育て給付金制度」は廃止され、新たな受け付けは行われない。

また、前町長の新井章一氏からの二五〇〇万円が補正で



かつては全国の河川や湖沼に生息し親しまれてきた「メダカ」だが今は激減し、環境庁から絶滅の危く種リストに上げられ、その保護が大きくメダカの生息する野上の水路

野上の用水路メダカ保全へ 一部捕獲 国道改修に先がけ

町内には野上の国道二九四号沿い、水田脇を流れる用水路約二〇メートルにわたり、県内でも最も魚影が濃いとされる数のメダカが生息している。この保護と水辺生態系の保全に努めようと平成十五年に結成された「鳥山のメダカを守る会」(会長磯淳昭)により、本格的な保護活動が行われようとしている。

先月二十八日には軽トラック一台分の空き缶やビニール袋などゴミを拾い、今日一日には大人六人で上流部の葦刈りを行った。今日十三日(日)

寄付金に組み込まれ、山あけ作業所整備事業(次年度繰越)として活用される。

一般質問には小堀操氏のほか藤田武、平塚英教、樋山隆四郎の四氏が登壇。町政全般に質した。七日には十七年度一般会計など八予算案の総括質疑、委員会付託が行われる。最終十一日にこれらの採決などで閉会する。

議決された主な議案の内容。

▼人権擁護委員候補者の推薦について *野上の槍山秀雄氏(69)の推薦(再任)に同意した。

▼町議会議員の報酬の減額に関する条例の制定 *四月から報酬月額を三%カットする。年額で約一五二万円削減される。

▼町長等の給与の減額に関する条例の制定 *四月から町長給料月額を一〇%、助役と収入役五%、教育長三%をそれぞれ削減する。年額で約一七六万円の減。

▼町安全で安心な町づくり条例の制定 *地域安全意識の高揚と自主的な安全活動の推進、犯罪及び事故等の未然防止のために制定。

▼町職員の寒冷地手当の支給に関する条例の廃止 *寒

規受付けは行わない。

▼十六年度一般会計補正予算 *歳入歳出に四三三〇万円を追加し総額を六〇億四一三八万円とした。歳入では、新井章一氏からの二五〇〇万円の寄付金、特別会計から繰入金四一〇〇万円、地方消費税交付金二二〇〇万円など。

歳出面では、イベントホール及び山あけ作業所整備事業などの商工費二五九〇万円、老人保健特別会計繰出金など衛生費三四六〇万円ほかの総務、民生、農林水産、教育、災害復旧費はいずれも減額補正。

には一般ボランティアに広く呼び掛け、水路の堀さらいなど環境保全に当たる。

同地を通る国道二九四号は増水のたびに水没することから、路面のかさ上げと拡張の改修工事が間もなく始められメダカの生息する水路の約半分が工事と関わる。このため守る会では、メダカが将来にわたって生息できる用水路の必要性から工事方法など具側と検討してきた。

その結果、用水路には底部が土のままの特殊なU字溝を使用し、連結には段差を付けず、江川との接続には雑魚が侵入できないよう大きな段差を設けることにした。

十三日の保全活動では、一部のメダカは自宅に持ち帰って飼育してもらい、工事終了

三月には珍しい大雪に

町内路面のほとんどは車が通れる状態だったことから大きな影響はなかった。今年初の本格的な雪に子どもからは「うれしい」。年輩男性は「うっとうしいだけ。暖冬だった」がここにきて寒い」と話す。

三月には珍しい大雪に

り始め、四日未明から本格的な降りとなり夕方まで続いた。市街地での積雪は約十三センチだったが、宇都宮市内では最大十四センチで三月としては十八年ぶりという積雪に見舞われた。

町内路面のほとんどは車が通れる状態だったことから大きな影響はなかった。今年初の本格的な雪に子どもからは「うれしい」。年輩男性は「うっとうしいだけ。暖冬だった」がここにきて寒い」と話す。

鳥山町健康クラブ会員 募集

鳥山町健康クラブ連合会

春です。4月から健康クラブが活動を始めます。今年初心者の方も皆と一緒に楽しく活動できるよう、最初の段階から始めます。ですから難しいことはありません。

尋ね人

この人を探しています

鳥山町下境842
塩野目 力夫 (58歳)